

世界青年学生祭典 in ベネズエラ 参加報告

変革の息吹ガッチリ受けとめ AALAをしっかりとアピール

前島 和枝（日本AALA事務局）



『帝国主義と戦争に反対』——この旗のもとに、世界各国からたたかいをすすめる青年が集まり、連帯をひろげる祭典として第16回世界青年学生祭典がベネズエラの首都カラカスでひらかれました。

日本AALAの代表3人は、日本民主青年同盟、全日本学生自治会総連合の仲間とともに、8月6日、ベネズエラへ旅立ちました。

浴衣での開会行進に大歓声



私たちはみんな浴衣姿で開会式に参加。どこに行っても注目をあつめ、人だかりができて「Japon」「Japon」と声をかけられました。数えきれない国ぐにの青年と交流して、「simbolo de la paz」（平和の象徴）と言いながら渡した折鶴はとても喜ばれました。

開会行進がはじまると、中央の広場ではいままで以上の「japon」コールで、すごい熱気と興奮。「明日にも世界は変わってしまうのではないか」と思えるほどのパワーに変革の強いうねりを感じて、私たちも「ノーモアヒロシマ、ノーモアナガサキ、ノーモアヒバクシャ」を力いっぱい叫びました。

チャベス大統領から歓迎を

突然、日本代表の一人が警備の人に連れていかれ、あっというま

にチャベス大統領のいる壇上へ。なんと、チャベス大統領から直接「明日はナガサキの日ですね。日本からの参加を心から歓迎します」との連帯のあいさつをもらったのです。その大興奮がさめやらぬまま、チャベス大統領の演説を聞き、何度も何度も言及された「ヒロシマ・ナガサキ」の言葉に、とても胸が熱くなった夜でした。

国営テレビの取材うける！

私たちは、たくさんのメディアから取材を受けましたが、なかでも印象に残ったのが、青年がつくる番組「カラーシアス」（国営テレビ）の取材です。スタッフは全員10代、20代で、インタビュアーのディエゴ君も17歳。「健全な情報を受けることは憲法で保障された権利。だから自分たちで知りたい情報を発信することもできる」のだそうです。ディエゴ君はチャベス革命への熱い尊敬の念と政策を語りました——「肌の色にかかわらず、国民はみな政治に参加することができる、と憲法に書かれている」、「チャベス大統領のすすめる社会主義に反対する人はいるが、決して敵ではない。彼らも社会をつくる一員であり、友達であり、家族である」、「平等に富が分配されることが社会主義であり、誰もが平等に人間らしく生きられる社会の実現が自分の夢である」等々。もちろん、私のほうも日本



（左側の野球帽の少年がディエゴ君）

AALAの活動と抱負をしっかりとアピール。ディエゴ君と「変革がすすめばすすむほど未来は明るい」と熱い握手をかわしました。

分科会の壇上でも発言

取材や各国の青年との交流の場だけでなく、大会の分科会の壇上でも、4人に発言の機会が与えられました。私は、日本AALAとラテンアメリカとの連帯の歴史、日本の民主団体として昨年はじめてベネズエラに訪問団を送ったこと、いま日本国憲法を守るたたかいをすすめていることなどをあげ、地域の変革から世界を変えようと連帯を呼びかけました。

いざバリオ（居住区）へ



8月11日には、ポリール・サークルのゴンサレス君の案内で、バリオ（居住区）に入り、草の根で着実に進行するベネズエラ革命の底力を実感。チャベス大統領のすすめる「バリオ・アデントロ（医療を居住区の中へ）計画」、「ロビンソン改革」（教育の普及）が国民のなかでどれほど浸透しているのか、その生活も目にすることができました——●医療：廃虚の家を改築し、24時間医療相談室として開放。キューバから高度な医療技術・医者 の派遣がされています。医療の目的は予防。いずれはガンのような大きな病気にも応対したいと意欲的に話してくれました。●教育：イレーネ・トルティエ